

令和7年 飯田市教育委員会12月定例会会議録

令和7年12月15日（月） 午後3時00分開会

【出席委員】

| | |
|----------|--------|
| 教育長 | 熊谷 邦千加 |
| 教育長職務代理者 | 北澤 正光 |
| 教育委員 | 野澤 稔弘 |
| 教育委員 | 林 綾子 |
| 教育委員 | 麦島 真理子 |

【出席職員】

| | |
|--------------------------|-------|
| 教育次長 | 秦野 高彦 |
| 副参事兼中央図書館長 | 瀧本 明子 |
| 教育政策課長 | 上沼 昭彦 |
| 学校教育課長 | 伊藤 寿 |
| 教育センター所長 | 北澤 孝郎 |
| 生涯学習・スポーツ課長兼国民スポーツ大会推進室長 | 後藤 武志 |
| 文化財保護活用課長兼考古博物館長 | 下平 博行 |
| 市公民館副館長 | 小林 和弘 |
| 文化会館館長兼新文化会館整備室長 | 筒井 文彦 |
| 美術博物館副館長 | 槇村 洋介 |
| 歴史研究所副所長 | 牧内 功 |
| 教育政策課総務係長 | 北澤 五月 |

日程第1 開 会

- 教育長（熊谷邦千加） それでは、定例会に入らせていただきます。
よろしく申し上げます。

日程第2 会期の決定

- 教育長（熊谷邦千加） それでは最初に日程の第2「会期の決定」でございます。本定例会の会期につきまして、本日12月15日の1日間といたしたいと思います。ご異議ございませんか。

（「ありません」との声あり）

- 教育長（熊谷邦千加） ご異議なしと認めます。
よって、今定例会の会期は、本日12月15日の1日間に決定をいたしました。
次に進みます。

日程第3 会議録署名委員の指名

- 教育長（熊谷邦千加） 続きまして日程第3、「会議録署名委員の指名」ですが、本日は会議録署名委員として林綾子教育委員をお願いしたいと思います。
○教育委員（林 綾子） はい、承知しました。

日程第4 会議録の承認

- 教育長（熊谷邦千加） それでは次の日程にまいります。「会議録の承認」であります。11月定例会の会議録につきまして、承認をいただければと思います。

あらかじめ原案のほうは各委員のほうにお送りをしてございますので、内容についてご異議ございませんか。

（「ありません」との声あり）

- 教育長（熊谷邦千加） ご異議なしと認めます。
よって、11月定例会の会議録は承認をいただきました。
次の日程に進みます。

日程第5 教育長報告事項

- 教育長（熊谷邦千加） 日程の第5になります。「教育長報告事項」でございます。

資料を御覧ください。

11月20日に、飯田焼肉給食の寄付贈呈がありました。これは、焼肉ロックフェス実行委員会から、「焼肉給食プロジェクト」として、飯田下伊那のこどもに焼肉給食を通して、友だち同士で食べる焼肉の美味しさ、楽しさを感じてもらいたいという思いのもと、10月初旬からの約一ヶ月の間Tシャツやステッカーを南信州各地で販売し、得られた収益を「焼肉給食」の食材費として、他町村とともに飯田市にも寄付していただいたものです。

11月22日は、千代小学校と千栄小学校の創立150周年記念式典が行われ、参加してまいりました。両校は明治5年に、それぞれの地で小学校がスタートし、明治8年には千代小学校、千栄小学校と、明治25年には、千栄小学校が千代尋常小学校千栄分教場となります。そのような歴史から、過去100周年記念も一緒に行っており、今回の150周年となりました。ゲストには小沢あきこさんをお招きしており、彼女の小学校時代の思い出話を、小学生を引き付けながらお話しするのを拝見し、改めて相手意識の大切さを感じた次第です。また、その後の新曲披露は、こどもの目の前でプロとしての演歌歌手の実力を存分に発揮され、圧倒されました。実行委員の皆さんと小学校がうまくかみ合って取り組んでいる様子がうかがえました。

その日の夜には、旧小笠原家書院において、竜峡中学の2年生による秋の音楽会がありました。1年生のころから総合的な学習の時間で、探究的な学習を進めてきた中での、地域貢献の取組の一つを拝見しました。寒い中ではありましたが、中学生のエネルギーが、地域を動かし、大勢の人を集め、旧小笠原家書院の紅葉のみならず地域の皆さんが集って楽しめるひと時を生み出していたと思います。

23日には、アテネ五輪と北京五輪で、オール一本勝ちで金メダルを獲得した谷本歩実さんを講師に迎え、南信柔道飯田大会の中で、柔道教室が行われました。谷本さんの笑顔に癒されつつ、飯田市武道館が賑わい、保育園児から中学生まで、体の動きを高める運動等に参加していました。前日には、飯田短期大学にて講演会も行われており、参加者が少なかったのがとてももったいないと思いましたが、谷本さんのよりよい自分を目指して取り組む、積極的な生き方に好印象をもちました。

11月29日の土曜日には、飯田市立中央図書館の110周年記念事業として、「図書館の明日を語る会」が開催されました。元ぎふメディアコスモス総合プロデューサー吉成信夫氏をお招きし、講演をいただいた後は、長野県立大学の新井直彦氏の事例発表と、新井氏の進行で、佐藤市長と、いい図書110もりあげ隊隊長の永井祐子さんや吉成氏によるパネルディスカッションが行われました。さらに、参加者による「これからの図

書館でやってみたいこと」のグループトークと、図書館2階の研修室・読書室が80人近い人で埋まり、中身も濃い充実した午後となりました。吉成氏の話は、まさに既成概念にとらわれず、何のための図書館かということ問い返す機会となりましたし、新井氏の進行のパネルディスカッションも、パネリストから発言を引き出し、「公共の場所を自分たちの場所として自分事として意識してもらおう」ためには、「余白をどうつくっていったらよいか」とか「これをやったらちょっと楽しそう」ということと、それについて佐藤市長が言う「寄ってたかってつくる」ことが必要だという話に方向づけられました。この110周年記念のため、いい図書110もりあげ隊を一昨年から立ち上げ、メンバーの皆さんが自分事として運営や進行を進めている様子は、ムトスの心を具現した姿だと感じました。

最後に、現在飯田市議会の第4回定例会が行われております。教育委員会には、多くの代表質問や一般質問が寄せられました。資料にあります福澤議員から市瀬議員までが代表質問、宮脇議員から関島議員までが一般質問となります。それぞれの質問と、回答の概要は記しておりますので、またお時間のある時に目を通していただければと思います。

私からの報告は以上でございます。

何かご質問等ありましたら。

よろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

○教育長(熊谷邦千加) はい。

日程第6 議案審議(1件)

○教育長(熊谷邦千加) それでは続いて「議案審議」のほうに入ります。

議案第86号 学校運営協議会委員の任命について

○教育長(熊谷邦千加) 最初に、議案第86号、「学校運営協議会委員の任命について」を議題といたします。

議案の説明をお願いします。

北澤教育センター所長。

○教育センター所長(北澤孝郎) 議案第86号、学校運営協議会委員の任命についての説明をいたします。

高陵中学校長及び座光寺小学校長から学校運営協議会委員の推薦の変更があったので飯田市学校運営協議会規則第7条第2項の規定により任命したいとするものです。任期は、同規則第9条第2項の規定により前委員の残任期間となります。

実は、11月に民生児童委員の改選があり、学校運営協議会の委員で該当の方は替わる可能性があります。今回、高陵学園から申し出がありました。その他の学園についても今後申し出があるかもしれません。

説明は以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） ただいまの説明につきまして、ご質問、ご意見等がございましたらお願いをいたします。

（「ありません」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） それでは議案第86号を採決いたします。

本案を原案のとおり決定することにご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） ご異議なしと認めます。

よって、議案第86号は、原案のとおり決定をされました。

議案第87号 令和7年度飯田市就学援助費支給対象者の認定について

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして、議案第87号、「令和7年度飯田市就学援助費支給対象者の認定について」を議題といたします。

伊藤学校教育課長、議案の説明をお願いします。

○学校教育課長（伊藤 寿） それでは議案第87号、令和7年度飯田市就学援助費支給対象者の認定について、ご説明いたします。

認定対象者につきましては、別紙のとおりでございますが、申請者名簿の一番下の生徒の学年とクラスは、1年3組が正しいものとなりますのでよろしく申し上げます。それぞれ記載いたしました認定要件にて、飯田市就学援助費支給要綱第5条第1項の規定により、飯田市就学援助費の支給対象者と認定くださいますようご提案を申し上げます。

説明は以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） この件につきまして、質疑はございませんか。

（「ありません」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） 続いてご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） それでは議案第 87 号を採決いたします。
本案を原案のとおり決定することにご異議ございませんか。
（「異議なし」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） ご異議なしと認めます。
よって、議案第 87 号は、原案のとおり決定をされました。
議案審議のほうは以上でございます。

日程第 7 協議事項

○教育長（熊谷邦千加） 本日、「協議事項」はございません。

日程第 8 陳情審議

○教育長（熊谷邦千加） さらに、本日は「陳情審議」もございません。
続けて次の日程に進みたいと思います。

日程第 9 その他

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして日程第 9 「その他」。

（1）教育委員報告事項

○教育長（熊谷邦千加） （1）番の「教育委員報告事項」に入ります。
教育委員の皆様方からご報告がございましたらお願いしたいと思います。
それでは、林委員お願いいたします。

○教育委員（林 綾子） 教育長のお話にもありました「中央図書館 110 年のあゆみ展」を 11 月 18 日に拝見してきました。110 年の記録が一つの部屋で一覧できるようになっており、開館時の様子などがよくわかりました。特に堀家蔵書「本草図譜」というものがガラスケースに展示されてあったのですが、とても美しいもので、堀家が幕府の要職にあったのでこのような美しいものがあるというようなことがわかりました。あゆみ展を見た記念でしおりをもらえたのですが、色々ある中で「ひさかた和紙」で作られた、図柄が本草図譜の中の植物が描いてある物を選びました。とても素敵なもので大切に使いたいなと思います。また、館内のあちこちに「図書館エピソード」が貼られていたのですが、幼児から高校生、年配の方まで図書館とのつながりや図書館の大切さが伝わる素敵な内容でした。

二点目ですが、11月23日、最終日になるかと思いますが、「伊那谷芸術文化祭」を拝見してきました。午前中だけだったのですが、キュアボイスさんというポップスの歌とコンテポラリーダンスの組み合わせという少し珍しいもの、それからスタジオ AKI さんというフラダンスの団体でした。どちらも私くらいの世代からさらにだいぶ年上の方まで参加されている団体でしたが、とにかく楽しそうで、衣装や髪型も含め歌やダンスを生き生きと表現されていました。「文化・芸術」というものが人の暮らしを支え、生き生きとさせるものなのだということを改めて実感させてもらいました。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） ありがとうございます。

続いて、北澤職務代理。

○教育長職務代理者（北澤正光） 林委員と同様に文化面のことで、「第25回現代の創造展」を観させていただきました。今年も、日本画、洋画、書、版画など7分野 157作品が一堂に展示され、力作を鑑賞させていただきました。毎年観に行かせていただいているのですが、毎年お名前をみる方、初めてお見掛けする方もあり、一年に一度の邂逅を楽しんでおります。今回も、制作動機やテーマ、釈文などを付けていただいている方が多く、素人の鑑賞者としては大変ありがたい心遣いだと思っています。

知人で作品を出品している方がおり、その人は重篤な病気になってしばらく作品の出品が出来ていなかったのですが、今年は久しぶりにその作品を観ることが出来て、病気の話も知っていたため、その状態からまた作品を作り上げるまでの状態になったのだなど、とても嬉しく感じた次第です。それぞれの作品の裏側に、作家の方の生きざまのようなものも感じられて感慨深く見させていただきました。

○教育長（熊谷邦千加） ありがとうございます。それでは、麦島教育委員お願いします。

○教育委員（麦島真理子） 2件活動報告させていただきます。

1つ目は、12/7に「第10回みなみ信州駅伝」に出場しました。昨年、一昨年は娘たちが出場していたので、今年で3年連続会場に足を運ばせていただきました。

今年は大大会全体として、まず一般の部と小学生の部合わせて過去最多の171チーム、982人のエントリーとなり、大勢の皆さんが参加し、大変盛り上がったと思います。また、非常に良い天気にも恵まれたこと、さらに、第10回という節目の大会を記念して、箱根駅伝出場経験のある7名の地元駅伝レジェンドの方々が小学生の部と一緒に走ったり、トークイベントが行われたりしていて、ランニング好きの方々にとって、とても刺激的な機会であったと思いました。

私個人としては、インフルエンザの流行期による心配もありましたが、メンバー内や娘の小学校のチーム内で欠員が生じることなく出場できたこと、冬晴れの空の下、怪我なく気持ちよく走り櫛を繋ぐことができ、本当に良かったです。また、「参加することや楽しく走ることに意義がある、何かミラクルを起こせたら」と20代～50代の多様なメンバー5名で構成された「ミラクルウイメン」というチーム名で出場したところ、ゾロ目賞というミラクルが起き、上位入賞だったわけではありませんが、運良く賞品をいただくことができ大変嬉しかったです。

2つ目は、先ほど北澤職務代理の報告と同じになりますが、12/11に「第25回現代の創造展」を中学生の娘と一緒に鑑賞してきました。案内状に「ご来館いただける場合は事前にご連絡ください」と書かれておりましたが、後から気づいたためご連絡せずすみませんでした。

平日の午後にも関わらず、どの展示室にも鑑賞している人が数人いるような感じで、館内の賑わいを感じました。

日本画・洋画・工芸・彫刻・版画・書・コンテンポラリーなど7部門の力作157点を鑑賞させていただきましたが、飯田下伊那にはこんなにも多くの作家さんがいることや作品のクオリティの高さに驚きの連続でした。作品の近くに寄ってみると、非常に手の込んだ作品やこだわりが見え、作家さんが自身の作品を通して表現している想いを想像しながら楽しく鑑賞することができました。今まで何回も美術博物館を訪れたことはありましたが、改めて菱田春草の常設展示を鑑賞したり、今回初めて柳田國男館に入り「民俗学への志が生まれた4つの体験」など現代の創造展以外の展示も興味深く見学させていただきました。ありがとうございました。

その他、活動報告ではありませんが、12/4に中学校の学校説明会があり、新入生の保護者として出席しました。保護者が一番不安に思っていることは部活動の地域移行の件であると会話や質疑から感じました。学校もまだ具体的なことを回答できない状態であり、「送迎ができないから部活は入らない」などの声も聞かれ、もう少し見通しが立つと良いと思いました。

最後に、昨年12月7日に教育委員に就任し、ちょうど1年が経ちました。一通り経験をさせていただき、様々な講習会や講演会、学校訪問や芸術鑑賞など多くの学びのある時間や心豊かになる時間を過ごすことができました。この場を借りて感謝申し上げます。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加）　ありがとうございました。

それでは、野澤委員お願いします。

○教育委員（野澤稔弘） 私からは2点報告いたします。

文化会館の移転について知人と話をしていたところ、新施設を建設することで一席1,000万という単価になるのではないかという話になりました。それほど高価であるなら、勇気ある改修も視野に入れていく必要があるのではないかと感じた次第です。

もう一つ、部活動の地域移行の関係ですが、シンポジウムにパネリストとして参加したのですが、現在教育委員会とエンジョイスクエアとは、二重に、並走して動いている状況のように見受けられます。行政としてのアプローチと、エンジョイスクエアのアプローチ、協働して足並みを揃えることが出来ないものかと考えています。

○教育長（熊谷邦千加） ありがとうございます。

それぞれについてご質問等はございませんか。

（「ありません」の声あり）

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございます。

（2）教育次長報告事項

○教育長（熊谷邦千加） では続きまして教育次長以下の報告に移ります。教育委員さんの発言に回答できるようであればそうした説明もお願いします。

それでは「教育次長報告」ですが、本日は別の会議出席のため遅れてまいりますので、先に進みます。

（3）教育政策課関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） （3）番の「教育政策課関係報告事項」に入ります。

教育政策課から報告をお願いします。

上沼教育政策課長。

○教育政策課長（上沼昭彦） 特にございませぬ。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

（4）学校教育課関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） それでは、続きまして（4）番、「学校教育課関係報告事項」。

○学校教育課長（伊藤 寿） 特にございませぬ。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

(5) 教育センター関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続いて（5）「教育センター関係報告事項」。

北澤教育センター所長。

○教育センター所長（北澤孝郎） 特にございませぬ。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

(6) 生涯学習・スポーツ課関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） では、続いて（6）番、「生涯学習・スポーツ課関係報告事項」。

後藤生涯学習・スポーツ課長。

○生涯学習・スポーツ課長（後藤武志） それでは、資料の3ページをお開きください。令和7年度みらい創造教育推進フォーラムにつきましてご説明をさせていただきます。こちらのフォーラムでございますけれども、昨年度までは、キャリア教育推進フォーラムという名称で行ってございましたが、今年度からみらい創造教育推進フォーラムと、名称を改めて行うものでございます。日時は令和8年2月7日の土曜日の午後、鼎文化センターで予定をしております。内容につきましては、そちらの資料でございますとおり、保育園から、結ジュニアリーダー育成講座まで、それぞれの皆様方から実践発表をしていただき、その後パネルディスカッションを予定しているところでございます。パネルディスカッションのファシリテーターは、探求ベースのお2人に行っていただくほか、パネリストとして、今年度、ピースゼミにご参加をいただいております、中学2年生と小学生の白澤さんご姉弟にご参加いただくほか、飯田短期大学の男子1期生としてご卒業されて、慈光幼稚園に就職された山崎さん、それから、東京大学大学院に飯田から進学をされて、地元から離れてみて初めてこの飯田の良さに気づかれたという山本さんに、それぞれ、パネリストとしてご参加をいただく予定をしております。内容につきましては、私も38年市役所で働いておりますけれども、昨年出させていただいた中で、非常に有意義な、実りあるフォーラムであるな、ということを実感させていただいたところでございます。ぜひともですね、教育委員の皆様方におかれましては、ご参加いただきたいと思っておりますし、本日出欠をご報告いただく紙をお配りさせていただいておりますけれども、ぜひ、出席をお願いをしたいと思いますところでございます。

続きまして、資料の8ページをお開きください。現在、開催中の12月定例会に議案として上程をさせて頂いておりますが、公の施設の指定管理者の指定について、でございます。

こちらの施設でございますけれども、飯田市総合運動場、飯田勤労者体育センター及び飯田市勤労青少年ホームの指定管理者の指定につきまして、現在の指定管理期間が令和8年3月31日を持って終了することに伴い、新たな指定管理者の指定を行うとしますのでございます。指定する団体の名称は、公益財団法人飯田市スポーツ協会でございます。指定の期間は、令和8年4月1日から令和13年3月31日までの5年間でございます。資料の方、8ページから9ページにかけては、施設の概要を載せさせて頂いておりますので、ご覧いただければと思います。

続いて17ページをお開きいただきたいと思っております。指定の理由でございますけれども、当該法人につきましては、施設の適正な維持管理が実施できる知見や経験を有しております。それを活かして、利用環境を向上させるための工夫なども実施する計画を有していることや、よりスポーツに親しむ機会を多く提供する計画を有しております。これらにより、施設の利用促進を始め、当市のスポーツ推進に関する各施策の推進が期待できるほか、各スポーツの競技者とのネットワークを有することから、競技者目線による施設維持や管理ができることや、市の事業への協力が得られる体制が整っていることが、指定の理由でございます。以上簡単ではございますが、指定管理者の指定につきまして、ご報告とさせていただきます。

私からは以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） ただいまの報告につきまして、何かご発言がございましたらお願いいたします。

よろしいですかね。

（「はい」との声あり）

（7）文化財保護活用課関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続いて（7）番、「文化財保護活用課関係報告事項」。

○文化財保護活用課長兼考古博物館長（下平博行） 特にございませぬ。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

（8）公民館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続いて（8）番へまいります。「公民館関係報告事項」。

○市公民館副館長（小林和弘） 令和7年度の飯田市二十歳の集いにつきましては、年が明けまして令和8年1月11日の開催となります。

各地区の開催時間、会場等は、資料の中段以降をご覧ください。

この二十歳の集いは、飯田市公民館が主管課であることから、二十歳の成人が地区実行委員会の活動を通して、地域を知り、地域との関わりを持つ大切な学習の機会と位置付け、様々な活動の展開から、地域に愛着と誇りを持ち、将来における自己のあり方を見つめる機会としています。

実行委員会の活動は、地域の方々のお力をお借りし、また、二十歳の集いOB・OGの協力も得るなど、同年代の横のつながりばかりではなく、縦のつながりを意識し取り組んでいます。

当日には、それぞれの地域学習、活動の報告が予定されております。

私からの報告は、以上となります。

○教育長（熊谷邦千加） はい。そうしましたら次の文化会館まで報告を続けたいと思います。

（9）文化会館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） （9）番、「文化会館関係報告事項」。

筒井文化会館館長。

○文化会館館長兼新文化会館整備室長（筒井文彦） 文化会館の筒井です。

文化会館からは、3点報告があります。

新文化会館の方針に関しては、ボリュームがあるので、はじめにイベントの情報を報告させていただきます。

まず、資料 43 ページをご覧ください。ましゅ&k e i のクリスマス会のお知らせです。今週末、12 月 20 日土曜日に飯田人形劇場で開催されます。午前 11 時からファミリーで楽しむクリスマス会が、午後の 7 時から大人のためのクリスマスとして上演があります。ぜひ、お越しいただきたいと思います。

続いて 45 ページをご覧ください。初春を寿ぐ竹田人形館「古典系あやつり人形芝居 ヒトカタ座」です。

座光寺にある竹田人形館では、新春の恒例イベントとして、人形芝居の上演を企画しています。来年 1 月 10 日土曜日に午前 11 時からと午後 2 時からの 2 回の上演を予定しています。毎年、楽しみにされているお客さんがいらっしゃいますが、今年は古典系あやつりということで、新春にふさわしい企画となっています。ぜひ、お越しいただきたいと思います。

それでは、新文化会館の整備方針に関して状況を報告させていただきます。説明は、報

告資料の 20 ページ以降となります。

11 月 27 日に新文化会館整備検討委員会を開催し、その委員会でお示しした方針案を説明いたします。なお、今後、12 月 19 日に市議会の全員協議会でもこの方針案を説明し、ご意見を伺うこととなっています。資料は、No. 1～No. 3 まであります。本日は、主に、資料 No. 1 を用いて説明いたしますので、最初に 20 ページをご覧ください。「飯田ひろば」実現のための基本方針のタイトルがあり、下段に目次があります。5 の「整備方針」以降が多くの市民の皆さんの関心が高い部分かと思えます。

整備方針は大きく 3 つあります。第一に、「まち」全体で「飯田ひろば」が実現するように機能を分散整備します。第二に、現在の文化活動を止めないように、まず現・文化会館の改修に着手します。（最大で 20 年の使用目標）そして、小ホール、中ホール、大ホールの順に、段階的に整備していきます。第三に、限られた財源を効果的に活用するため、複合化を基本に施設整備を行います。

それでは、資料に沿って説明いたします。21 ページをご覧ください。これまでの経緯を簡単にご説明します。飯田文化会館は昭和 47 年に完成し、半世紀以上にわたって飯田の文化を支えてきました。しかし、建物の老朽化は避けられない現実です。令和 4 年 6 月に「新文化会館整備検討委員会」を立ち上げました。市民の代表 13 名、公募委員 3 名、専門家 3 名、合わせて 19 名の委員の皆さんに集まっていただき、何度も話し合いを重ねていただきました。検討委員会では「飯田の文化とは何か」という根本的な問いから始め、ワークショップを開き、専門家を招いて学び、飯田らしさとは何かを深く考えました。そして令和 6 年 3 月、「新しい文化会館の整備に関する基本構想」をまとめることができました。

次のページの「2 経過」をご覧ください。現在の飯田文化会館ですが、実は建設に何度も挫折がありました。昭和 31 年から検討が始まりましたが、2 度も建設が断念されています。そして 3 度目の挑戦で、ようやく昭和 47 年に現在の場所に完成しました。

昨年 8 月、専門家会議を設置し、基本計画の検討を始めました。その中で、大きな課題に直面することになります。建設費の高騰、広大な土地の確保、そしてリニア工事の延長による長期財政見通しへの影響。こうした現実を前に、改めて考え直す必要がありました。しかし同時に、専門家の皆様から「機能を分散して、段階的に整備する方法もある」という新しい可能性をいただきました。

23 ページをご覧ください。建物と整備場所候補に関する検討概要を記載してあります。一体整備と分散整備を比較検討しました。一体整備の場合は、にぎわいが生まれやすく、管理がしやすい利点がありますが、非常に広い土地が必要で、建設費が一度に大きくかか

ります。対して分散整備の場合は、より多くの人が身近な場所で文化に触れられ、市内の複数の場所ににぎわいが広がります。用地の確保が比較的容易で、段階的に整備できるので財政負担を分散できます。ただし、施設全体の総額は増える可能性があります。

下段、建設費の推移のグラフをご覧ください。過去 10 年間で建設費は右肩上がりです。特に令和 2 年以降、資材価格と労務費の高騰が加速しました。平成 27 年を基準として 100 とすると、令和 7 年は 136.5、つまり、1.36 倍以上になっており、この上昇は今後も続くと予測されています。

次に 24 ページをご覧ください。整備場所の候補を比較検討しております。左の列、中心拠点は、交通の便が良く立ち寄りやすい反面、用地補償費が約 36 億円程度と最も高額です。真ん中の列、中心拠点近郊は、利便性が高く、用地補償費は約 15 億円程度ですが、近隣への配慮が必要です。右の列、広域交通拠点は、リニア開通を見据えた場所で、用地補償費は約 8.5 億円程度と最も低いですが、現時点では交通機能に課題があります。

24 ページ下段の「現飯田文化会館の施設・運営に関する最近の出来事」をご覧ください。現在の飯田文化会館は、今年だけでも、次々とトラブルが発生するという、待ったなしの状況に置かれています。4月にホールの空調設備が故障、5月に舞台技術管理業務の受託者のうち1者が休止、6月に講習室の空調が故障、7月には屋上防水の劣化で講習室の天井が一部落下、ホールの音響操作卓に不具合、8月にはホールの照明操作卓に不具合が発生しました。これらは氷山の一角です。残念ながら設備全般が限界を迎えつつあります。文化活動を止めないために、一刻も早い対応が必要な状況です。

こうして、これまでの専門家会議や整備検討委員会での議論を基に総合的に判断した結果、3つの課題と現文化会館の深刻な状況を解決する方法として、機能を分散して段階的に整備するという方針にたどり着きました。

25 ページの「3 基本理念」をご覧ください。「市民とともに、文化を育み、みんなが集い、創り、伝える、感動の飯田ひろば」。この言葉に、整備検討委員の皆さんの思いが込められています。具体的には5つの基本方針があります。「集う」、「観る」、「創る」、「伝える」、「育む」。この5つが、「飯田ひろば」の柱となります。これらを、これからの飯田文化会館の基本理念としていきます。

26 ページの「4 飯田ひろばの概念」をご覧ください。ここが、とても大切なポイントです。「飯田ひろば」とは、建物のことではありません。飯田市全体が「飯田ひろば」なのです。市内のあちこちで文化活動が行われ、人々が集い、創作し、伝えていく。まち全体が、文化の舞台になるということです。飯田文化会館を拠点に、ムトスぷらざ、人形劇場、黒

田や今田の伝統人形の継承施設、20 地区の公民館、そしてこれから整備する新しい文化施設。これらすべてが「飯田ひろば」を実現するために必要なネットワークとなります。人々は日常的に舞台芸術や文化活動に触れ、楽しみながら暮らす。市内のどこでも、誰もが集い、創り、伝える活動が繰り返され、ワクワク、ドキドキが生まれ続ける。これが「飯田ひろば」が目指す姿です。

27 ページをご覧ください。5の「整備方針」です。冒頭にお伝えしたとおり、整備方針は3つあります。第一に、「まち」全体で「飯田ひろば」が実現するように機能を分散整備します。第二に、文化活動を止めないように、まず現在の文化会館の改修に着手します。そして、小ホール、中ホール、大ホールの順に、段階的に整備していきます。第三に、限られた財源を効果的に活用するため、複合化を基本に施設整備を行います。複合化とは、異なる目的や機能を持つ複数の施設を一つの敷地や建物に集約させることです。

下段の「6 整備方針の考え方」をご覧ください。「飯田ひろば」を「館」単体ではなく「まち」全体で実現する、です。「飯田ひろば」を1つの館で実現しようとする場合、建設費の急騰により多額の財政負担が見込まれるですとか、広大な敷地を必要とし、適地が限られるといった課題があります。それに対して、分散整備は、施設それぞれに特色や機能を持たせることによって、利用者の間口や選択肢を増やすことができ、市内複数箇所において、にぎわいを生み出すことができるといった、多様性、発展性が期待できます。

このため、「飯田ひろば」を実現するために必要な機能については、「1つの館」で整備するのではなく、複数の施設に分散して整備することとし、「まち」全体で「飯田ひろば」を実現することを目指します。

現飯田文化会館は先ほども述べた通り、令和7年以降、経年劣化による施設設備の不具合が多発しています。文化活動継続のために、その改修に着手し、続いて各ホールの機能を段階的に整備していきます。ただし、必要な視点として、施設を分散して整備する場合、財政負担の平準化は図られますが、整備費用の総額は増加する可能性が高くなります。そこで、整備するそれぞれの施設は、複合化を基本に検討します。

また、「飯田ひろば」を「まち」全体で実現するためには、整備された拠点間を結ぶ交通機能が不可欠です。施設整備と併せて、拠点間を結ぶ交通機能（公共交通ほか）の検討も必要となります。

28 ページをご覧ください。分散整備する機能と場所について、整備の順番にご説明します。まず小ホール機能を旧飯田市公民館跡地に整備します。この場所は、飯田市立動物園から、りんご並木、ゆいきっず、人形時計塔、桜並木という動線と、ムトスぷらざ、中央

図書館、美術博物館という動線の結節点にあり、ほかの拠点との相乗効果が高い場所です。

「飯田ひろば」の「集う」機能のうち、こども、親子が日常的に集う機能は、これまで乏しかった機能であり、「小ホール」において充実させたい機能です。また、雨の日や猛暑の日でも、こどもが遊べる場所を整備してほしいという強い要望が子育て世代から寄せられており、議会からも同様の要望が出ています。これらを併せて実現するための複合施設として「(仮称)飯田こども広場」の整備を検討します。

続いて中ホールの機能です。中ホール機能は、鼎文化センター周辺に整備します。鼎文化センター周辺は、飯田 OIDE 長姫高校及び下伊那農業高校と JR 飯田線鼎駅とを結ぶ動線上に位置し、中高生を中心とした若い世代の日常的な利用を拡大するには適地です。現在も演劇や吹奏楽の練習、発表に活用されています。「鼎複合施設」の構想があるため、その整備構想を整理する中で、「飯田ひろば」の「中ホール」相当の機能を取り入れることを検討します。

最後に「大ホール」ですが、当面は、現飯田文化会館ホールの改修によりその機能を補います。耐震改修済みですが、設備の改修が必要です。改修して延命使用する間に、「大ホール」の整備の在り方を再検討します。整備場所の候補として考えるのは、現時点において、リニア駅周辺です。その理由は、「大ホール」整備に必要な敷地面積が確保でき、リニア駅前広場と駐車場の共用が可能であること、リニア駅前広場との相乗効果が期待できること、リニアの利用により、上演者や指導者のアクセス利便性が高いこと、となります。

次のページで、分散整備する機能と所要室の概要をお示ししています。人数は現時点での想定であり、今後、施設の複合化を検討するなかで、具体的に深めていくこととなります。ページの下段には、整備の順番を図にしております。まず現飯田文化会館の改修、続いて小ホール整備、中ホール整備、最後に大ホール整備となります。大ホールの整備に当たっては、他施設を含めた市民ニーズ、利用状況、社会経済情勢等も十分に考慮し、中長期的な視点で適正な規模・内容等を検討したうえで整備します。整備期間は、最大で 20 年程度を見込んでいます。

最後に 30 ページをご覧ください。現在の飯田文化会館の改修計画についてお話しします。

基本的な考え方として、基本構想を踏まえた改修とすること、市民に親しまれ、交流の場となる施設を目指すこと、バリアフリーで、誰もが使いやすい施設にすること、休館期間を最小限にすること、としております。

続いて建物の方針ですが、目標使用年数は、高額設備更新周期を考慮し、最大 73 年、これはあと 20 年使うことを目標とするものです。また、効率的に改修し、ランニングコスト

を削減することと、建物を使いながら工事を進めるため、安全を最優先することを掲げます。主な改修内容ですが、耐震補強工事は完了しています。これから行うものは、舞台設備、空調設備、受変電設備など多岐にわたります。早急に優先順位を検討し、緊急度の高いものから改修を行います。また、各所要室についても、基本構想で望まれた空間が実現できるように検討します。

最後になりますが、「飯田ひろば」は、単なる建物の話ではありません。これは、飯田市全体を文化の舞台にしようという、壮大な挑戦です。確かに、建設費の高騰や財政の制約という厳しい現実があります。現在の文化会館の老朽化も深刻です。しかし、その制約の中から、専門家会議の委員の皆さんや整備検討委員の皆さんの助言により、基本構想の具現化を追求した方針として生み出されたものです。

一つの大きな建物ではなく、市内の複数の場所に文化の拠点を作る。そうすることで、より多くの方が、身近な場所で文化に触れられる。まち全体ににぎわいが広がります。改修した文化会館、(仮称)飯田こども広場、鼎複合施設。そして、その先にある大ホール。これらすべてが、市民の皆さんの文化活動を支え、次の世代へと引き継がれていきます。

「みんなが集い、創り、伝える、感動の飯田ひろば」この理念を、市民の皆さんとともに、一歩ずつ実現していきたいと思い、基本方針としてお示ししたものです。

説明は以上です

○教育長（熊谷邦千加） 沢山のボリュームでしたので、ここで公民館と文化会館の発表について、何かご発言がありましたらお願いいたします。

野澤委員。

○教育委員（野澤稔弘） 文化会館と、公民館も関係しますが、申し上げます。

分散化すると、管理運営の費用が余分にかかるのではないかと思います。自分なんかは、大は小を兼ねると考えるため、ひとつ大きいのを作れば小まで兼ねて、ひとつで済むのではないかと思います。如何でしょうか。分散化の話にしても、現時点で施設の稼働率がみえず、稼働率が少ない設備をたくさん作ってもと考えてしまう。また、旧公民館は耐震化設備ではないだろうため、耐震化が必要となり、かえって非常に大きな費用が掛かるのではないのでしょうか。それこそ、二十歳の集いなんてわずかな費用ではあるだろうけど、そういった事業をやめて、事業費用を集約することを考えるべきではないかと考えます。

今一つ思うところは、私は現在運動公園の近くに住んでいます。30年ほど前は毎年秋になると運動公園でお祭りが開催されており、野外劇場でバンド演奏がされたり、露天商が

並んだりして結構賑やかでした。これもいつの間にかなくなり今では「丘の上フェスティバル」などに置き換わってきているような気がしています。分散化を考えて進めていく上では「丘の上」と呼ばれる地域からの抵抗があるのではないかと思うのです。そういったことを考慮した上で分散化をしていかないと結局元の木阿弥のような状況になってしまう懸念を持っています。ぜひ考慮いただければと思います。

あと、自分は前々から成人式、あるいは二十歳の集いについて思うところがあり申していました。というのも、成人の祝は、家庭で行うので十分ではないかと考えるためです。現在市の財政のうち、30%ほどが教育費であると聞きます。現在結婚をしない人たちが増え、結婚をしてもこどものいない我が家のような家庭も多く、このような人からも税金が支払われていることを考えると、成人するまでの教育に使用される教育費で十分であって、成人になることに対して公費負担を行う必要がどれほどあるのかと考えてしまいました。こうした意見について課題として持っていてほしいと思います。

4年ほど前に座光寺公民館で行われた二十歳の集いを見学させていただきました。わが子が成人したことに対するコメントを保護者が求められたとき誰一人として「無事育ててくれてありがとう」とか「ここまでになってくれたのは地域の皆さんのおかげでした」などの言葉は一切なかったことを今でも忘れません。これはもうすぐになくしてしまうべきだと感じました。20歳が成人だというのであれば、七五三と同じように各家庭でお祝いをするならばよくて税金が使われる筋合いはないのではないかと考えます。

○教育長（熊谷邦千加） ありがとうございます。いただいた意見に対して、何かございますか。筒井文化会館館長。

○文化会館館長兼新文化会館整備室長（筒井文彦） 旧市公民館ですが、施設は解体を行い、新たに複合施設を建設する予定です。なお、プール跡地を含め、土地は飯田市のものであるため、その取得等に係る費用はございません。

また分散化による管理運営費用の件ですが、整備する施設は複合化を基本として検討しております。旧市公民館跡地であれば、全天候型の（仮称）飯田子ども広場を、また県公民館であれば、もともと県地区において施設集約を考えていた中へ、ホール機能を追加していくこととなります。分散化により、管理運営費が単純に増えるのではなく、他の機能と一緒に整備することにより、効率的な運営を目指すこととなります。

○教育長（熊谷邦千加） そのほかにもございますか。
林委員。

○教育委員（林 綾子） 事前に資料に目を通す時間がありましたので、目を通した中で、自分

の感じたことを申し上げます。まずは長い期間をかけてこのように検討していただけてきたことに感謝申し上げます。建設費用等については自分は全く分からないのですが、まず 20 年の長寿命化というのがそんなことが出来るのだな、と率直にびっくりしました。また、私を含め市民の皆さんは一つの大きな建物を建てるイメージでいたのではないかと思いますので、分散整備ということは受け入れにくいという意見もちろんあると思います。ですが、今回このように説明をいただいて私自身は納得して聞いておりました。何より、文化活動を止めないという考えは本当に大切に、私が見聞きする範囲だけでも、伊那谷文化芸術祭等で発表する団体をはじめ、文化会館や鼎文化センターの老朽化でこの場所が使えなくなったらどうしようという心配をされている話をよく聞きます。活動の場が無くならないように、段階整備をいただけるということはなるほどなと思いました。また、この案の中で特にいいなと思ったのが、全天候型で子どもたちの遊び場というか集う場を、小ホール機能と一緒に整備いただくという案はとても嬉しく思います。お子さんやその保護者さんがそこで文化・芸術に触れる機会を持ったり、さらにはそこでワンストップで行政手続きが出来たり、子育て支援の情報を得られたりということが出来るとさらに良いなと思います。また、鼎の方も含め、複合施設ということですので、幅広い世代が文化的活動に限らず、そういった手続きや何かも含め活用できる場になると良いと思います。

また、大ホールについては、今後 20 年の間で検討されていくということではありますが、財源が限られている中で、リニア駅周辺に大きな施設を建てるのが本当に飯田市民のためになるのか、どの程度の規模が適切なのかなど今後よくよく検討していただければな、と思います。

○教育長（熊谷邦千加） ありがとうございます。そのほかに何かございますか。回答等もよろしいでしょうか。

ないようでしたら次にまいります。

(10) 図書館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） (10) 番、「図書館関係報告事項」。

瀧本中央図書館館長。

○副参事兼中央図書館長（瀧本明子） 中央図書館から 2 件お願いいたします。

資料 46、47 ページをご覧ください。今年度中央図書館は、大正 4 年に公立図書館として開館してから 110 年となることから、開館 110 周年記念事業を開催してきましたが、11 月末で記念事業が終了しましたので、ご報告を申し上げます。

9月23日に実施しました「図書館マルシェ」につきましては、以前にご報告いたしました。

11月15日から30日まで、「中央図書館のあゆみ展」を行いました。多くの方に観覧いただき、中央図書館の歴史や市民協働の活動、蔵書やサービスについて知っていただくことができました。観覧された方が思い出を話してくださったり、展示や上映しているDVDを見た方が知り合いの方にも伝えてまた来館してくださったりするなど、多くの方と思い出を共有して図書館の活動を振り返ることができました。

11月29日に開催した「図書館の明日を語る会」では、講演会、事例発表、パネルディスカッションの後にグループトークの時間を設けて、参加者それぞれがやってみたいことを出し合う時間としました。本を通じた交流掲示板、大人の悩みにこどもが答える、市内のおもしろい場所を紹介し合うなど、たくさんのやってみたいことが出されて活発に意見交換が行われました。

図書館エピソードは、資料には3点のみ記載していますが、こどもさんから高齢の方まで様々な年代の方108人にご応募いただきました。「図書館の明日を語る会」で出されたやってみたいことを書いた付箋と図書館エピソードは、現在中央図書館で展示していますので、ご覧いただければと思います。「よむとす 本の紹介」へも8の方が紹介文をお寄せくださり、図書館ホームページと南信州新聞でご紹介しました。

また、飯田コアカレッジの学生さんの協力により、5分程度の図書館PR動画を3本制作しました。学生さんと一緒に、図書館を使っていたけるような動画にしたらいかと考えて制作したことで、多くの方に関心を持っていただくことができました。記念事業でも上映しましたが、飯田市公式YouTubeでも公開していますので、ぜひご覧いただければと思います。

110周年記念事業を、実行委員「いい図書110もりあげ隊」の皆さんと企画から一緒に検討し、ボランティアの皆さん、コアカレッジの学生さんにも協力いただいて実施したことで、アイデアが広がり、多くの方に関心を持っていただくことができたと思います。

次に、資料48ページをご覧ください。1月24日に、「冬季ジブン・チャレンジ」の一環として、中央図書館で「それってどんな本!?推し本×味見読書」を行います。ほかの人にも読んでほしい推し本を持ち寄って紹介し合う企画です。「味見読書」というのは、複数の本をちょっとずつ読む体験をするもので、持ち寄った本を3分位ずつ回し読みした後、感想を言い合ったり紹介し合ったりします。参加対象は中学生以上です。様々な年代の方にご参加いただいて、本への興味が広がったり、世代を超えた交流をしたりすることができ

たらと考えています。

以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） はい。そうしましたら歴史研究所まで報告を続けたいと思います。

(11) 美術博物館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） (11) 番、「美術博物館関係報告事項」。

榎村美術博物館副館長。

○美術博物館副館長（榎村洋介） 美術博物館から2件お願いいたします。

まず、資料の49ページ、50ページのびはくにゅーす1月号でございます。50ページから1件、市民ギャラリーの抽選会についてです。美術博物館では、文化芸術に関する創造活動の発表の場として、飯田下伊那地域に住所を有する個人・団体の方々に館内の市民ギャラリーを貸し出していますが、その抽選会を2月1日、日曜日に開催します。この抽選会では、来年度4月から3月までの期間を抽選します。ご利用をご希望の方がいらっしゃいましたらご案内ください。

続きまして、51ページ、52ページの写真家60周年記念展「水谷章人の世界」の開催についてです。水谷章人さんは、飯田出身のスポーツ写真家で、写真家60周年を記念しての展覧会となります。水谷さんは、1965年に山岳写真家としてデビューの後、スポーツ写真の開拓者として活躍され、オリンピックなどで著名なスポーツマンの姿を取られてきました。また近年では、故郷である伊那谷、信濃路の風景や人の営みを撮影されています。この展覧会では、スキー写真、スポーツ写真、そして伊那谷、信濃路の写真まで、約80点でその活動を振り返ります。会期中は、水谷さんによるギャラリートーク、美術鑑賞の会を開催いたします。ご本人の貴重なお話を聞く機会ですので是非ご参加ください。

以上でございます。

(12) 歴史研究所関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして(12)「歴史研究所関係報告事項」。

○歴史研究所副所長（牧内 功） それでは、資料53ページになります、歴研ニュース139号をごらんください。

新刊案内として『画像で見る 飯田歌舞伎座－明治の幻の大劇場－』の書籍紹介と、今回の刊行に合わせ1月17日14時から、飯田市役所3階の会場とオンライン併用で開催の地域史講座について掲載しています。

飯田歌舞伎座については、令和5年度に美術博物館でトピック展示を行い、好評をいただきました。この展示を契機に、資料の問い合わせや新たな情報が寄せられ、新たな資料の発見もありました。

そこで、飯田歌舞伎座に関する資料をカラー図版で記録に残し、研究成果をまとめて書籍を刊行しました。本日、教育委員の皆様には、この書籍を配布しましたので、お時間があるときにご一読ください。

1月17日の地域史講座では、書籍に掲載した新たな情報や史料、飯田歌舞伎座の状況や飯田の町への影響などを報告します。

54 ページは、研究紹介として、堀家が飯田に入り、2年後の延宝（えんぼう）2年（1674年）から記録された飯田藩の政務日誌である「飯田御用覚書（いいたごようおぼえがき）」に書かれている、家臣の屋敷替えに関する記事が、当時の城下町飯田の様子を知る史料とされます。「飯田城絵図（いいたじょうえず）」に、どのように付箋に書かれて残されているか、また、そこからどんなことがわかるかについて紹介しています。

55 ページ上段は、リレーエッセイ。下段は、2月21日に開催する「聞き取りの入門講座」についてです。今回の講座は、「聞き手」となる人材の育成を目的にしており、顧問研究員で大阪大学の安岡健一さんを講師にして、実際にお話を聞く時に気をつけることや、機材の使い方など、必要な知識や技能を身につける、実践に向けた講座になります。

最終 56 ページは、飯田アカデミア第 109 講座についてです。「新しい世界史教育を目指してー理論編&体験編ー」と題して、2月14日13時30分から、飯田市役所3階で、会場とオンライン併用で開催します。

講師の小川幸司さんは、飯田市在住で、現在、伊那弥生ヶ丘高校の教諭をされています。令和4年度に開始した世界史と日本史を融合した高校1年生の新科目「歴史総合」に、中央教育審議会のワーキンググループで科目の設計に携わりました。

昨年度、公民館主催の市民大学講座でも講演されていますが、今回の飯田アカデミアでは、従来の知識注入重視の科目から、歴史的思考力の重視に転換しつつある高校の歴史教育について、第1講では、その目指す歴史教育の理論を解説してもらい、第2講では、実践編として、世界史の教員である小川さんに、中世ヨーロッパの十字軍を事例にした模擬授業をしてもらい、受講者に体験をしてもらう予定です。

中段以下は、歴研ゼミの12月・1月の開催日程についてそれぞれ掲載しています。時間がある時にお目通しいただければと思います。

以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） 以上、図書館から歴史研究所まで、報告について何かご質問等がございましたらお出しただければと思いますが、いかがでしょうか。

よろしいですかね。

（「はい」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございました。

（13）今後の日程について

○教育長（熊谷邦千加） それでは（13）番、「今後の日程について」。

北澤総務係長。

○教育政策課総務係長（北澤五月） （13）今後の日程についてを御覧ください。

年が明けた1月20日には、1月定例会を本会議室で、同様に、2月13日に2月定例会を同様に本会議室で予定しておりますので、よろしくお願ひします。

また、第5回の校長会及び教頭会が、それぞれ2月16日と2月24日に予定しております。5回目の校長会及び教頭会は、教育委員の皆様にご出席を願う会議となりますので、ご予定をいただけますと幸いです。

日程は以上です。

○教育長（熊谷邦千加） 日程について何かご質問等ございますか。

（「ありません」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） 全体を通して何か発言しそびれたようなこと、聞き忘れたことがございましたらいかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） はい。

日程第10 閉会

○教育長（熊谷邦千加） それでは日程の第10。

以上をもちまして、本日の定例会の日程は全て終了いたしました。

お疲れ様でした。

閉会 午後 4時30分